

日本の個人資産運用と行動経済学的特性

大竹 文雄
明坂 弥香

目 次

- | | |
|--------------|---------|
| 1. はじめに | 3. 分析結果 |
| 2. データと変数の定義 | 4. むすび |

本稿では、危険回避度、時間割引率という資産選択に関わる標準的な個人属性に加えて、金融知識と金融知識に対する自信過剰が日本の個人のリスク資産選択と資産保有に与える影響を実証的に分析し、次の二つの結果が得られた。第一に、リスク資産比率は、家計資産運用決定者の危険回避度に加えて、金融知識の高さと金融知識に対する自信過剰の影響を受ける。第二に、金融知識は資産保有額を増やす方向で影響を与え、金融知識に対する自信過剰も金融資産保有額を増加させる。

1. はじめに

日本の個人金融資産運用の特徴として、現預金の比率が高いことが指摘されている。株式や投資信託などのリスク資産の保有比率は、米国や欧州諸国に比べて低い(伊藤他[2017])。この理由は、

標準的資産選択理論からは、期待収益と危険回避度の国際的な差に求められる。しかし、Kinari [2007]、伊藤他 [2017] によれば、危険回避度や収益率で日米の差を説明できる部分は小さいことが示されている。

リスク資産保有比率を説明する上で、注目され



大竹 文雄 (おおたけ ふみお)

大阪大学社会経済研究所教授。博士(経済学)。専門は労働経済学、行動経済学。1983年京都大学経済学部卒業。85年大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。大阪大学経済学部助手、大阪府立大学講師等を経て、現職。主な著作は『日本の不平等』(日本経済新聞出版社 [2005])、『競争と公平感』(中公新書 [2010])、『経済学のセンスを磨く』(日経プレミアシリーズ [2015]) など。NHK Eテレ「オイコノミア」に出演中。



明坂 弥香 (あけさか みか)

大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程在学。大阪大学社会経済研究所特任研究員、アジア太平洋研究所研究員を兼任。専門は労働経済学、行動経済学。2010年関西学院大学経済学部(3年次早期)修了。13年大阪大学大学院経済学研究科博士前期課程修了。現在に至る。最近の主な研究に、「事業所内・事業所間賃金格差の変遷 日本の事業所一労働者結合データによる考察」Osaka University ISER Discussion Paper. No.985 [2016] (三好向洋氏との共著)がある。